

手だてでじっくりと淹れるコーヒーが好評



NPO法人「サポートハウスちやお」 施設長 那須 司さん

活動の場を広げ2店出店 利用者の活動をサポート

NPO法人(特定非営利活動法人)「サポートハウスちやお」(本村誠一理事長)は、社会に出て働きたいと願う、障がいのある方の支援と就労の促進を図るため、平成20年に誕生しました。利用者への就労支援を行う「サポートハウスちやお」の施設長の那須司さんにお話を伺いました。

「サポートハウスちやお」では、

現在、25人の利用者が活動しており、企業から依頼を受け、ダンボールの組み立てや商品パッケージのシール貼り、タオルの梱包のほか、手縫いによる布巾の製作や割り箸の袋詰めなど、毎日多くの仕事を

こなしています。また、中央公民館1階に「喫茶クロバー」、そして、今年6月には市立病院1階に持ち帰り専門の「テイクアウトコーヒーショップキートス」を出店し、新たに活動の場を広げました。



▲市立病院1階に出店する「テイクアウトコーヒーショップキートス」の店内



▲中央公民館1階に出店する「喫茶クロバー」の店内

この2つの店舗では、美瑛町のコーヒー専門店Goshuの自家焙煎コーヒー豆を主力に、利用者がコーヒーを手だて(ハンドドリッ プ)で提供するほか、冷たい飲み物や軽食(クロバーのみ)なども提供しています。利用者、店舗の準備や接客、

調理などの業務を分担して行い、就労に必要な知識や能力の向上、そして、来店するお客さんとのふれあいを通し、地域とのつながりを深めながら、社会に出て働くために励んでいます。手だてで、じっくりと淹れるコーヒーは、時間をかけて訓練に取り組み、社会へ踏み出すためにチャレンジする利用者の姿に重なると感じています。これからの、多くの協力をいただいている関係機関との連携を深め、一人でも多くの利用者が、社会に出て働くことができるように、そして、就労後も働く利用者の不安を解消できるように、しっかりと支援していきたいと思っ

「サポートハウスちやお」は、利用者の活動を暖かく見守り、きめ細かくサポートし、一般就労を目指す利用者の支えとなることでしょう。

お問い合わせは
NPO法人「サポートハウスちやお」
43 3 8 8 8

朝採りの新鮮な地元産野菜に賑わう



留萌市商店街振興組合連合会 専務理事 室本 直俊さん

軽トラの荷台に野菜満載 生産農家と市民をつなぐ

留萌市商店街振興組合連合会(以下商店街連合会)が、初めて挑んだ「開運だるま夕焼け軽トラ市」は、朝採りの新鮮な地元産野菜を皆さんに市価より安く提供して喜んでもらい、マチの賑わい創出と愛される商店街づくりのために開かれました。商店街連合会専務理事の室本直俊さんにお話を伺いました。

「開運だるま夕焼け軽トラ市」は、開運町のコミュニティ施設「あずまし屋開運だるま店」隣の駐車場で、7月23日から9月24日までの毎週水曜午後4時から6時まで開かれています。すでに何度か開催し、多くの皆

さんに朝採りの新鮮な地元産野菜を楽しんでいただいています。この企画は、以前、商店街連合会が、独自に買い物客などにアンケートを行った際に「地元産の野菜の直売を行ってはどうか」「商店街に賑わいが無い」という声



▲軽トラックの荷台には朝採りの新鮮な野菜などが並ぶ



▲手ごろな価格で提供される野菜を求めて多くの市民で賑わう

多く寄せられました。これらの声を参考に企画を練り、市内の野菜生産農家と食育や1次産業の振興に取り組むフィードバックも実行委員会の皆さんの心強い協力を得て、開催にこぎつきました。安く購入できる値ごろ感と地元産であるという安心感も手伝ってか、開始30分程度で売り切れてし

まうことがあり、ご迷惑をおかけしたこともありましたが、引き続き「開運だるま夕焼け軽トラ市」を開催していくための大きな手応えを感じています。留萌は「食」の宝庫です。これからも、「開運だるま夕焼け軽トラ市」を通じて、地元の生産農家と手を携えながら、皆さんに新鮮で安心な地元産野菜を提供し、地産地消の推進にも取り組んでいければと思います。商店街連合会では、これからも皆さんの声やアイデアを大切に、地域に密着した活発な活動を展開し、マチの賑わい創出と市民の皆さんに愛される商店街づくりを目指していきます。

軽トラの荷台に満載したトマトや玉ねぎ、長ネギ、キュウリ、ダイコン、ナス、ししとうなど、朝採りの新鮮な地元産野菜を堪能しませんか。

お問い合わせは
留萌市商店街振興組合連合会
賑わい広場
56 4 3 8 2